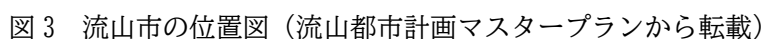


1 流山市の自然・地理的環境

流山市は、千葉県の北西部に位置し、都心から 25km 圏内、つくばエクスプレスの開通により、秋葉原まで最短で 20 分の距離にあります。面積は 35.32 km²、東西約 8km、南北約 10km で、東は旧小金牧の台地を境に柏市、西は江戸川を境に埼玉県三郷市・吉川市、南は坂川を境に松戸市、北は利根運河を境に野田市と接しています。



（２） 地形

流山市の地形は、下総台地（関東ローム層と呼ばれる火山灰土）と江戸川や坂川沿いの低地部分に大きく分かれており、台地は標高 15～20m、低地は標高 5～6mです。常磐自動車道が横断する地点より南側と松戸市との市境を流れる坂川流域は、更新世の浸食により、台地と低地が複雑に入り組む谷津地形で千葉県の下総台地でよくみられる特徴的な地形です。

市域の水系は東武野田線付近が分水界となり、西側は江戸川水系、東側は利根川・手賀沼水系、南側は坂川水系と大きく3つに分かれています。柏市・野田市境の利根運河は、明治時代に開削された人工河川です。運河開削以前の小河川は、運河駅周辺から西側は江戸川へ、東側は利根川に注いでいました。東武野田線江戸川台駅東側の江戸川台東 1 丁目や駒木台付近から南下する小河川は、駒木付近で合流して大堀川となり手賀沼に注いでいます。東武野田線とつくば

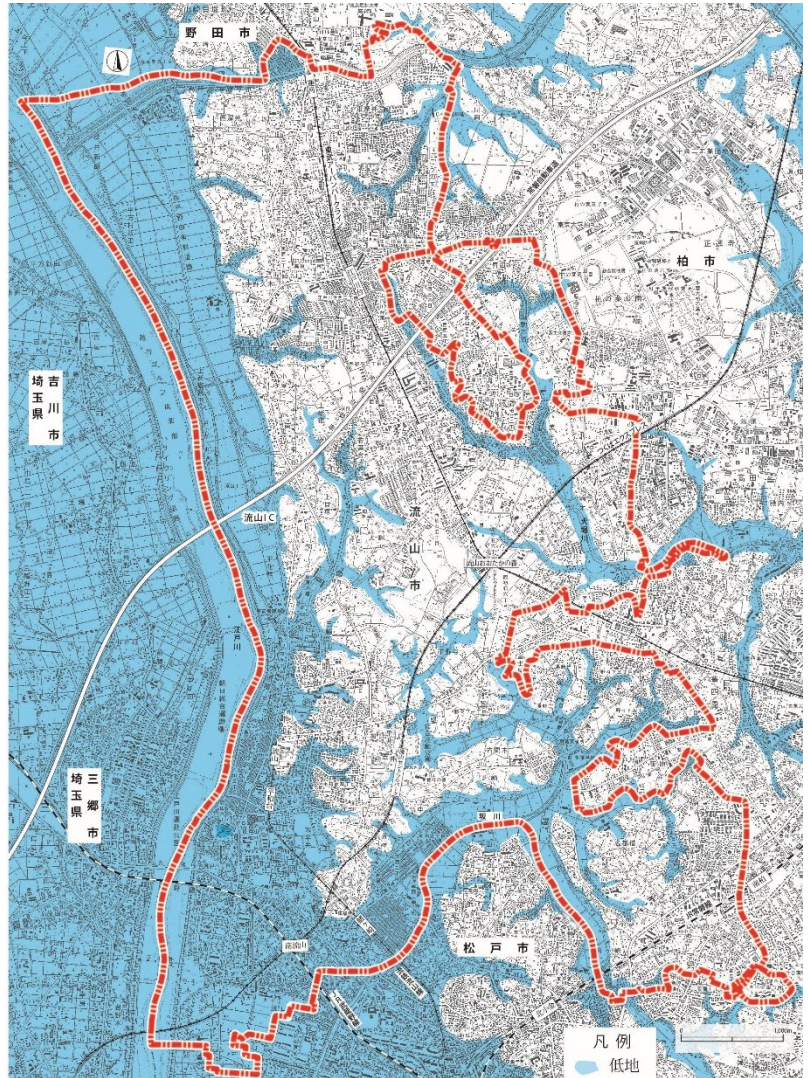
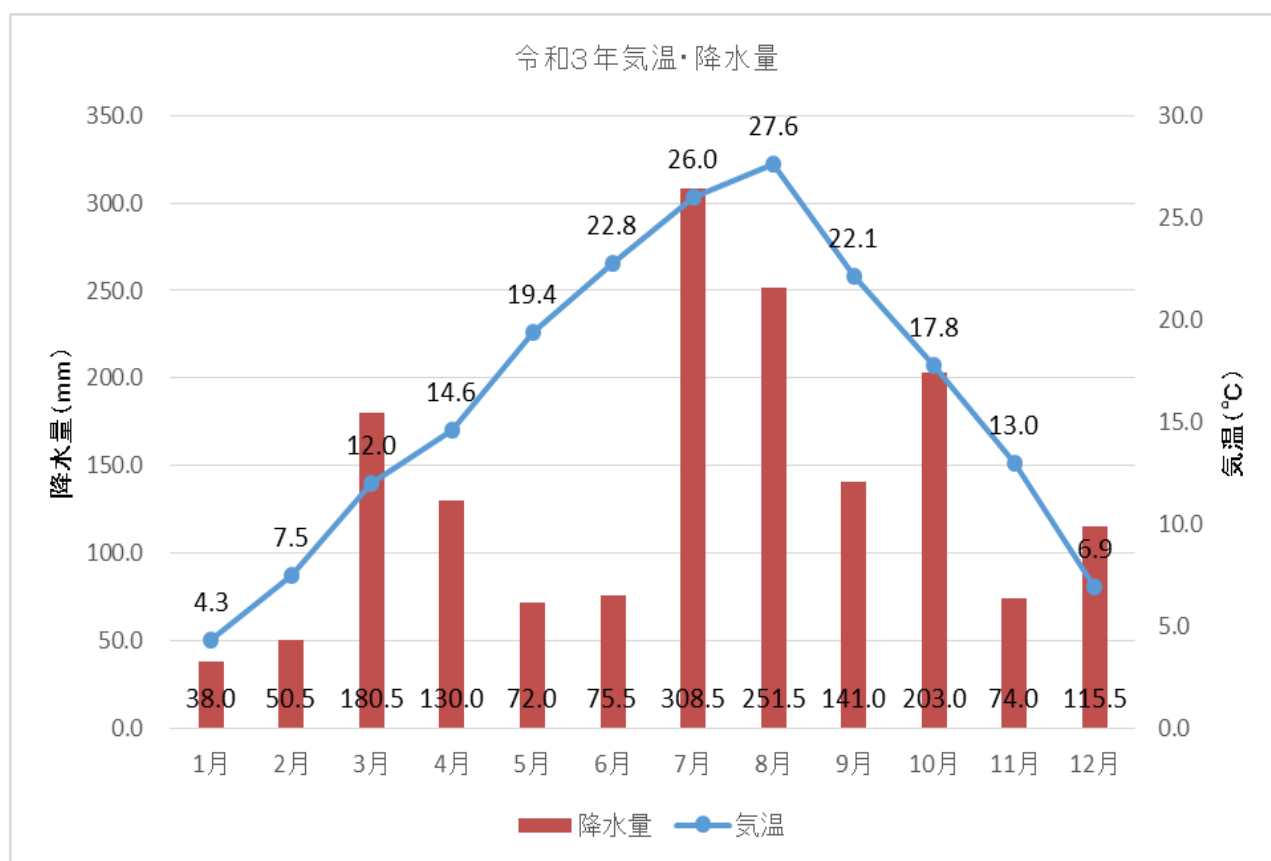


図4 流山市の地形図

エクスプレス線より西側の谷津から流れる小河川は、江戸川へ、流山おおたかの森駅付近から南方向へ流れる小河川は坂川に注いでいます。

（３） 気候

流山市は、東京湾岸と関東内陸の気候の両方の気候が見られる地域です。過去 10 年間の傾向を見ると、年の平均気温は 16.2℃で、最低気温は約－5℃、最高気温は 40℃近くなります。近年は温暖化の影響もあり、平成 24 年と比べ、年間の平均気温は 1℃ほど高くなっています。平均降水量は約 1,300mmで、関東地方に共通するように冬場の降水量は少なく、晴天率は比較的高く 65%ほどです。



区 分	気温(°C)			湿度(%)			風速(m/s)		天気日数(日)			降水量(mm)
	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最多 風向	晴	曇	雨(雪)	
平成 24 年(2012)	15.2	36.8	-4.7	70.0	100.0	12.7	3.0	NNW	241	69	56(1)	1,132.0
25 年(2013)	15.7	39.0	-3.7	69.9	100.0	12.5	3.1	NNW	263	69	33(1)	1,192.5
26 年(2014)	15.3	36.8	-3.9	70.4	100.0	14.1	2.7	NNW	249	76	40(2)	1,422.0
27 年(2015)	15.9	37.7	-2.7	68.3	100.0	13.6	2.9	NNW	249	67	49(2)	1,427.5
28 年(2016)	16.0	36.7	-2.3	73.8	100.0	14.7	2.8	NNW	241	67	58(2)	1,348.5
29 年(2017)	15.4	37.0	-3.9	75.5	100.0	18.6	2.8	NNW	254	62	49	1,208.5
30 年(2018)	16.4	39.0	-4	76.3	100.0	17.9	2.3	NNW	244	58	63	1,063.0
令和元年(2019)	16.0	37.2	-2.9	73.3	100.0	17.1	2.7	NNW	241	73	51(2)	1,505.0
2 年(2020)	16.1	38.0	-4.1	79.8	100.0	18.7	2.8	NNW	231	64	71(3)	1,180.0
3 年(2021)	16.2	36.5	-4.9	77.2	100.0	14.2	2.7	NW	218	75	71	1,640.0

表3 流山市の気象 (流山市統計書令和3年度版から転載)

(4) 自然

平成17年(2005)に開業したつくばエクスプレス線の鉄道建設に伴う周辺区画整理事業によって市内の自然環境は大きく変化しました。街の様相が大きく変わる中、流山市では、「都心から一番近い森のまち」を標榜し、その施策を実行するため、都市計画マスタープランや第2次流山市環境基本計画、生物多様性ながれやま戦略(第二期)を策定し、自然との共生や緑の保全をうたっています。

自然との共生として、利根運河の植生、新川耕地の水田や斜面林、思井・芝崎・古間木・長崎・前ヶ崎の坂川流域の斜面林及びその周辺植生の保存を

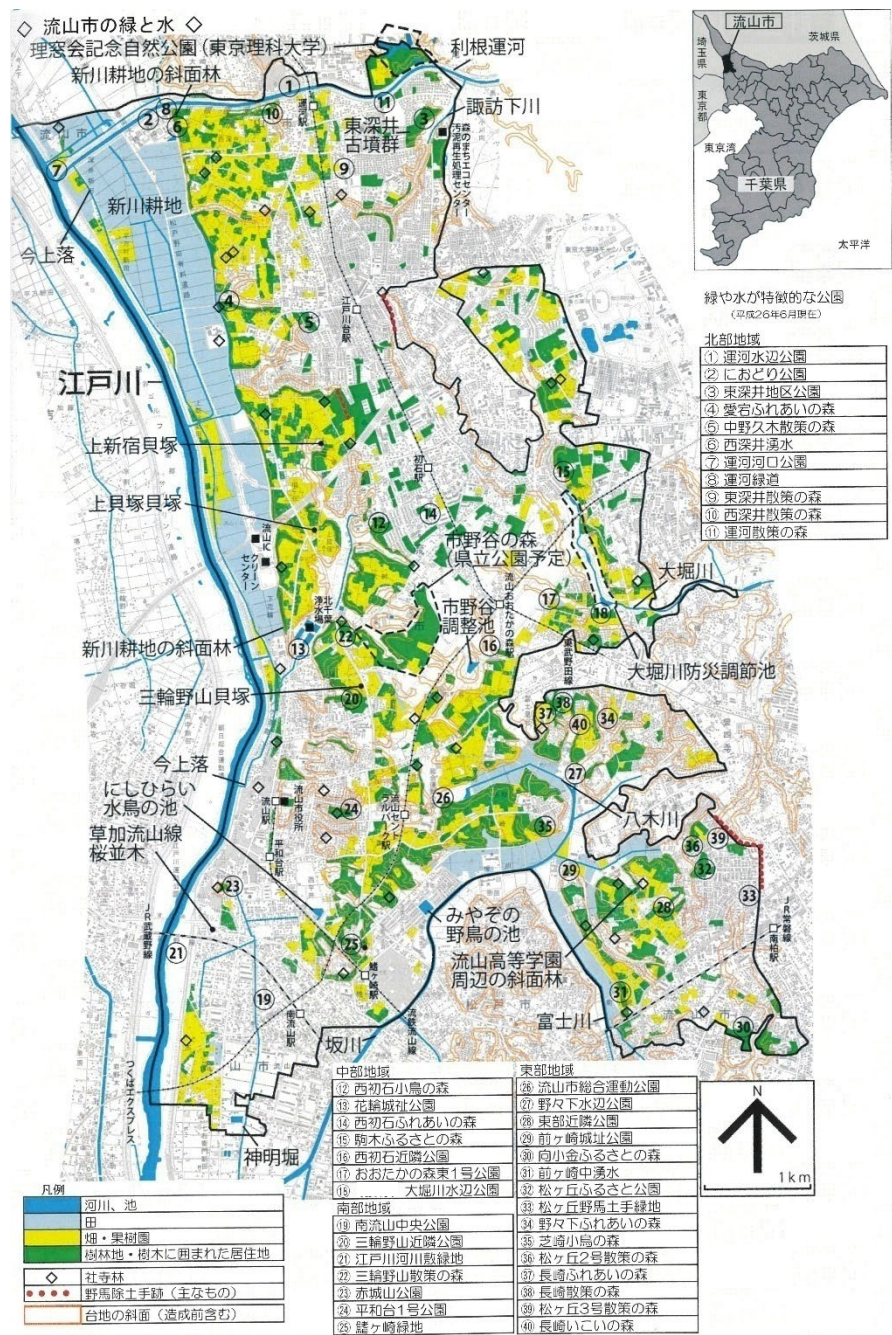


図5 流山市の自然(第2次流山市環境基本計画から転載)

位置づけています。また、つくばエクスプレス関連区画整理事業地内では、約24haの市野谷の森を保存整備することとなり、流山市の緑のシンボルともなっています。

ア 利根運河周辺で見られる動植物

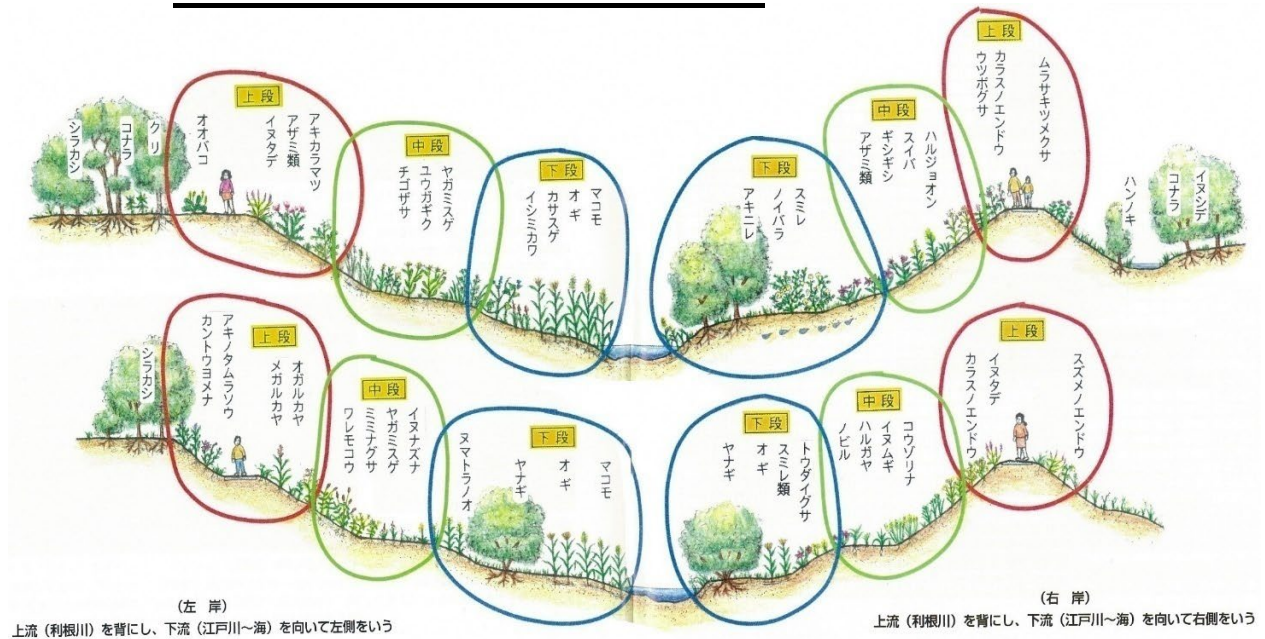
利根運河が河川交通としての役割を終えて約80年がたち、運河の水辺と堤防上、周辺の森や谷津には、様々な動植物が生息し、流山市にとって自然豊かな場所として多くの市民に親しまれている場所となっています。

表4 利根運河周辺でみられる動植物

	希少種	よく見られるもの
植物	ノジトラノオ・キンラン・フジバ カマ・ノウルシ・ノカラムツ・ト ネハナヤスリ・ホソバイヌタデ・ コオニユリ・ナンバンハコベ・セ イタカハイリ・ヒメシオン・レン リソウ・アマナ・バアソブ	オギ・ヨシ・カントウタンポポ・ シロネ・ノアザミ・ノハラアザ ミ・ノジスミレ・ツリガネニンジ ン・ワレモコウ・ツルボ・カント ウヨメナ・チガヤ・アキノエノコ ログサ・ヌマトラノオ・オガルカ ヤ・コナラ・クヌギ・シラカシ・ ヤマザクラ
鳥類	バン・カワセミ・コサギ・ダイサ ギ	カルガモ・コガモ・ゴイサギ・モ ズ
昆虫類	ジャノメチョウ・ミドリシジミ・ ウラナミアカシジミ・ミヤマチャ バネセセリ・ヘイケボタル	ヤマトシジミ・ベニシジミ・モン キチョウ・ジャコウアゲハ・アオ スジアゲハ・キチョウ・スズグロ シロチョウ・アカタテハ・オニヤ ンマ・シオカラトンボ
両生類	ニホンアカガエル	
魚類	キンブナ	オイカワ・コイ・ドジョウ
哺乳類	カヤネズミ	

「生物多様性ながれやま戦略第二期」から転載・一部編集

利根運河の植物生育環境の例（断面模式図）



上段：人が頻繁に行き来する整備された歩道近くには、外来種が多い。

中段：急勾配の斜面には、イネ科の植物に加え、草原性の在来種が多い。

下段：運河を特徴づける湿地性の植物が多い。河畔林も点在している。

図6 利根運河の植物図（「利根運河の花ごよみ」から転載）

イ 市野谷の森で見られる動植物

つくばエクスプレス線の沿線整備で計画された区画整理事業で、市野谷の森に当時絶滅危惧種であった「オオタカ」の営巣が確認され、約24haの公園として、保存されることになりました。市野谷の森は、新しい住宅地と接していますが、多くの動植物が生息しており、本市における「都心から一番近い森のまち」の象徴ともいえる場所となっています。

表5 市野谷の森で見られる動植物

	希少種	よく見られるもの
植物	キンラン・ヤブムグラ・ギンラン・ササクサ・ワニグチソウ	コナラ・シラカシ・イヌシデ・シロダモ・オトコエシ・ツクバトリカブト
鳥類	オオタカ・オオルリ・キビタキ・フクロウ	アオジ・エナガ・シジュウカラ・ヒヨドリ・コゲラ・モズ
昆虫類	オオチャバネセセリ・ミヤマチャバネセセリ・ウラナミアカシジミ・アカシジミ	ムラサキシジミ・コムスジ・ヤマトシジミ・モンシロチョウ・キタキチョウ・キタテハ
両生類	ニホンアカガエル	
哺乳類	キツネ	タヌキ

「生物多様性ながれやま戦略第二期」から転載・一部編集

2 流山市の社会的状況

(1) 人口の状況

流山市は、昭和42年（1967）に市制施行以降、首都圏のベッドタウンとしての開発により昭和50年代まで急激な人口の伸びがみられました。平成になると人口増加は緩やかになります。この状況を変えた

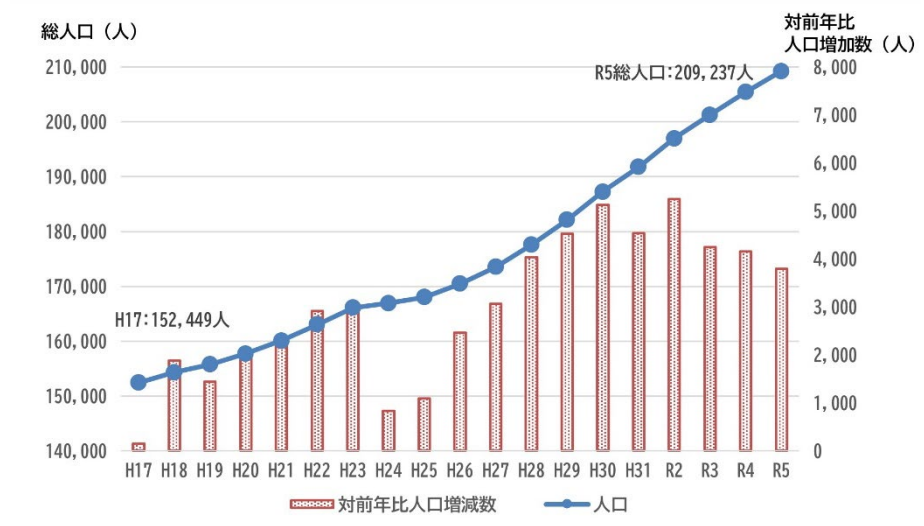


図7 総人口の推移

のは、平成17年（2005）のつくばエクスプレス線の開業です。沿線の区画整理事業が進むにつれて、人口が増加し続け、令和6年3月末で211,648人に達しています。

都市計画マスタープランの人口推計によると、全国的に人口減少が進む中で、流山市は令和9年（2027）に21.3万人まで増え、令和12年（2030）に20.9万人になると予測しています。流山市の人口増加は続く中、少子高齢化も進んでおり、市域では高齢化が進む地区と若い世代が多く住む地区との2極化も顕著となっています。

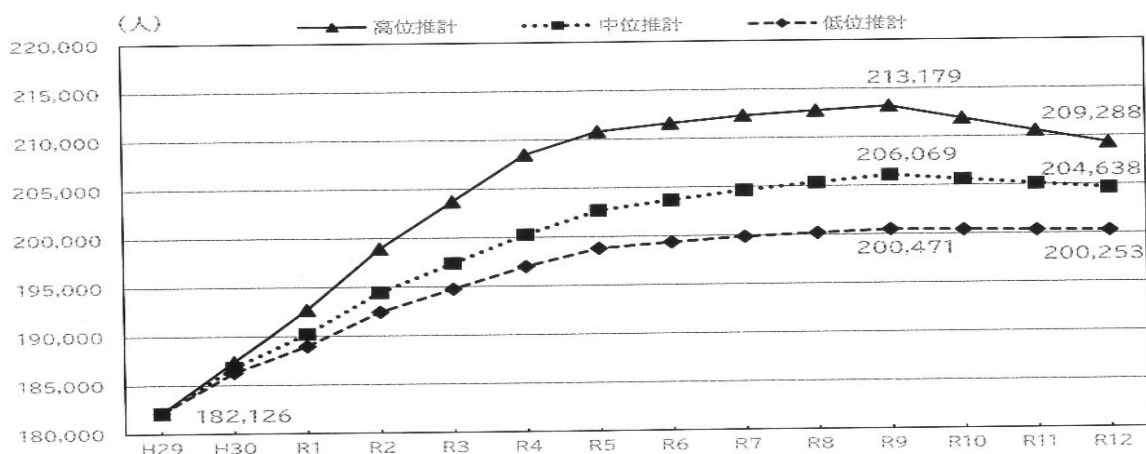


図8 流山市の将来人口推計の結果【参照：流山市総合計画調査報告書】

(流山市都市計画マスタープランから転載)

（２） 産業

市内では、江戸時代より農業と流山本町のみりんを中心とした醸造業が主力産業でした。農業は、戦後の都市開発が進む中で耕地面積及び農業従事者が減少の一途を辿っています。さらにつくばエクスプレス線の沿線の開発事業により農地面積は半減しました。工業は、中・小規模な事業者が多い状況です。この中で化粧品メーカーの(株)ファンケルや卓球台を製造する(株)三英などの有名企業も存在しています。商業では、つくばエクスプレス線開業以前は大きな商業地がありませんでしたが、近年流山おおたかの森駅を中心に大型商業施設の進出が目立っています。また、農業地域であった江戸川沿いの新川耕地には、流山インターチェンジに近い立地を活かした、巨大な物流倉庫群が整備されています。



新川耕地に建てられた物流倉庫群

（３） 交通

現在市内を通る鉄道は、流鉄流山線、JR 常磐線、JR 武蔵野線、東武野田線、つくばエクスプレス線の5路線9駅があります。つくばエクスプレス線開通以前、都心に通う主な通勤方法は流鉄流山線、東武野田線で、利用者は馬橋駅、新松戸駅、柏駅でJR常磐線に乗り換えるか、JR武蔵野線を利用していました。つくばエクスプレス線の開業に伴い、都心に直接向かう路線ができたことによって利用状況は大きく変わりました。

道路では、流山市中心部を高速道路の常磐自動車道が通り、流山インターチェンジから乗り入れることができます。流山市南部には国道6号線が通り、市内を南北に縦貫する県道松戸野田線や流山インターチェンジそばから茨城県取手市に向かう県道守谷流山線などが通っています。さらに区画整理事業に伴って順次、都市計画道路が整備されつつあり、令和5年には、三郷流山橋が完成し、市内の交通網は大きく変化を遂げています。市内の

(単位：人)

		令和3 (2021)	平成30 (2018)	平成23 (2011)	平成16 (2004)
流鉄	流山	1,131	1,404	1,401	3,701
	平和台	1,089	1,269	1,250	1,316
	鰯ヶ崎	537	597	660	1,351
JR	南流山	30,259	34,954	27,958	13,790
東武	流山おおたかの森	25,162	29,215	23,977	—
	初石	8,218	9,302	8,696	10,776
	江戸川台	9,856	12,148	12,285	14,116
	運河	8,614	11,019	11,309	10,916
TX	南流山	31,064	37,030	29,277	—
	流山セントラルパーク	4,533	5,248	2,855	—
	流山おおたかの森	32,529	38,194	29,056	—

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により利用数が減少している。

表6 鉄道各駅の1日平均運輸状況の変遷（千葉県統計年鑑から転載）

道路整備に伴い、流山おおたかの森駅・南流山駅を起点としたバス路線や流山ぐリーンバスが運行しています。



流鉄流山線



常磐自動車道流山 IC

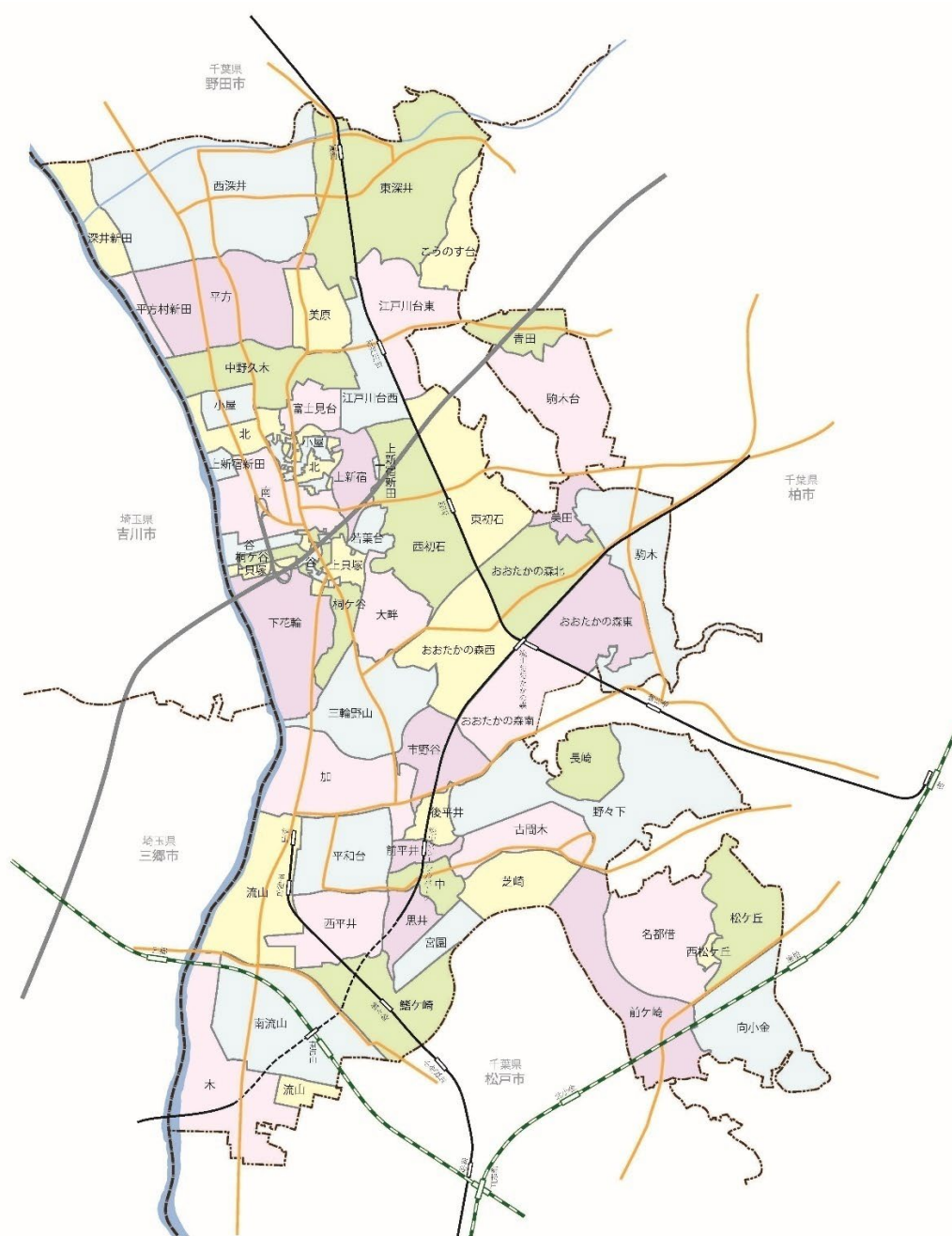


図9 流山市内の交通網

(4) 教育機関

市内にある学校は、大学1校（私立）、高校4校（県立）、特別支援学校2校（県立）、中学校10校（市立）、小学校20校（市立19、私立1）です。

令和5年（2023）5月現在、小学校児童数12,979名、中学校生徒数は4,914名です。つくばエクスプレス線沿線開発に伴い、流山おおたかの森・南流山周辺の小学校は、全国でも有数のマンモス校である一方、それ以外の小中学校の児童数は横ばい傾向です。

（５）生涯学習施設

ア 流山市立博物館

市制 10 周年を記念して昭和 53 年（1978）に開館しました。3 万年前の旧石器時代から現在までの流山市の歴史を学ぶことができる常設展のほか、年 1～2 回の企画展、子ども向けと一般向けの講座を実施しています。開館から 45 年が経過し、常設展示のリニューアルを順次進めています。



中央図書館・博物館

イ 一茶双樹記念館・杜のアトリエ黎明

一茶双樹記念館は、江戸時代後期の俳人小林一茶とみりん醸造家 5 代秋元三左衛門（俳号双樹）との交流の場所に整備された記念館で、平成 7 年（1995）に開館しました。江戸時代末期の安政年間に建てられた建物を解体復元し、併せて商家や茶室を整備し、茶会や俳句講座、邦楽の演奏会などが行われています。

杜のアトリエ黎明は、画家の笹岡了一、秋元松子が昭和 32 年（1957）に設立した L・T・S 笹岡絵画研究所を遺族から流山市に寄贈され、芸術文化の拠点として整備した施設です。現在、両施設とも指定管理者制度を導入しており、指定管理者により文化・芸術の拠点として各種講座を開催しています。



一茶双樹記念館



杜のアトリエ黎明

ウ 公民館

市内には、公民館が6カ所（中央・北部・初石・東部・南流山・おおたかの森センター）あり、公民館学級や講座、ゆうゆう大学等の生涯学習の様々な取り組みを行っています。令和3年度には延べ 337,231 人の利用がありました。なお、中央公民館以外の施設は指定管理者制度を導入しており、各施設管理者が積極的に事業を展開しています。

エ 流山市生涯学習センター

千葉県施設であった流山青年の家を改修して平成17年度にできた施設です。つくばエクスプレス線流山セントラルパーク駅の近くにあるため、利用率が高い施設です。同施設も指定管理者制度を導入し、様々な講座を展開しています。

オ 図書館

市立図書館は、博物館と同じ建物にある中央図書館のほか、森の図書館、木の図書館、南流山の地域図書館、おおたかの森子ども図書館、北部分館、初石分館の計7館で構成されています。このうち、地域図書館3館とおおたかの森子ども図書館は指定管理者制度を導入しています。

令和4年度には、一般書の蔵書数は338,972冊、児童書は155,813冊です（うち郷土資料として一般書13,899冊を含む）。利用カード登録者数は47,127人。貸出数は年間1,148,382冊となっています。



流山市生涯学習センター



南流山地域図書館